

職場における熱中症対策

使用者委員 水淵大作

今年の九州南部地方の梅雨は、5月16日頃に入り、6月27日頃には明けた。梅雨入りが平年より14日早く、且つ、梅雨明けも平年より18日早い観測史上2番目の早さだった。全国的にも、早く入り、早く明けるといった短い梅雨だった。そのため猛暑もしくは短時間集中豪雨という極端な気候となった。

カーエアコン修理が集中する夏場が繁忙期となる弊社では、梅雨明けからお盆休み前までが仕事の最盛期だ。そして、朝晩涼しくなり始めるお盆明けから徐々に収束していくものだった。ところが、近年の猛暑は5月中旬頃に始まり10月初旬頃まで続き、この間(カー)エアコンが不可欠となった。正に夏が約半年ある様な感じとなっている。

厚生省によると「職場での熱中症により近年は、1年間で約30人が亡くなり、約1,000人以上が4日以上仕事を休んでいる」ということで、今年6月1日に施行された「改正労働安全衛生規則」により、職場における熱中症対策が義務化された。対象となるのは、「WBGT値（暑さ指数）28度以上又は気温31度以上の環境下で連続1時間以上又は1日4時間を超えて実施が見込まれる作業」が行われる事業場で、その事業者が熱中症の重篤化を防止するための「体制整備」「手順作成」「関係者への周知」が義務付けられた。つまり熱中症のおそれがある労働者を早期に見つけ、その状況に応じ、迅速かつ適切に対処せねばならないということだ。

夏の風物詩といえば甲子園球場の全国高校野球大会だ。今年も、8月5日に様々な暑さ・健康対策が取られた上で、開幕した。まず開会式が夕方の午後4時からに、そして、開幕試合の1試合だけが行われた。更に昨年より実施されていた午前と夕方の2部制を今年は、第1日～6日の6日間に拡大し1日4試合の日でも実施された。その日は午前8時に第1試合を開始、その後第2試合を行う。そして、インターバルを設け、第3試合を午後4時15分開始、その後第4試合となる。また午前の試合は午後1時半、夕方の試合は午後10時を過ぎた場合新しいイニングの表には入らず、翌日以降に再開される「継続試合」と決められた。しかも午前の第2試合終了後に45分で全ての観客は退場し、閉門。第3試合開始1時間前の午後3時15分に再び開門。観客を入れる徹底ぶりだった。つまり、最も暑い危険な時間帯に試合はしない事で選手や観客を守る対策が取られたのである。

民間事業場も労災防止の様々な対策を実施しているが、究極の対策として1日で最も危険な時間帯は作業を休止。その間は休息し、日差しが和らぐ夕方から再開するような2部制の働き方を採り入れる事業所が、今後増えるかもしれない。7、8月の最暑期の「職場における熱中症対策」の一つとして、一考の価値が出てきた。